



【は】っけん・気付く

久遠

【ル】ートを考えつながら

【え】がおを創り出す



春江中学校教育目標

- 自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
- 規律を守り、責任を重んずる生徒
- 心身ともに健康で、思いやりのある生徒

心を合わせるということ 10月5日朝礼 校長講話より一部抜粋

校長 友田 和

校舎のあちらこちらから、合唱の歌声が聞こえる季節になりました。今月（10月16日）に行われる「久遠祭」に向けて、各学級での練習もいよいよ本格的になっています。合唱練習期間が始まり、あちこちで歌声が響き、学校全体が少しずつ久遠祭に向かって動き始めていることを感じます。

合唱には、人の心に染み入る不思議な力があります。生徒たちの歌声を聴いていると、思わず胸が熱くなり、時には涙が出そうになることもあります。それは、目の前の美しいハーモニーの向こうに、そこに至るまでの1人ひとりの努力や葛藤が感じられるからなのだと思います。性格も個性も、得意なことも苦手なことも、それぞれ違う生徒たちが、互いの声を聴きながら、同じ1つの曲に向かって心を合わせていく。その姿に触れると、歌声以上のものが胸に届いてくるように思います。

私自身、中学生の頃、合唱の伴奏者を務めていました。ピアノを弾きながら、クラスの皆と声を掛け合い、1つの曲をつくり上げていった経験は、今でも心に残っています。練習が思うように進まず悩んだこともありましたが、本番でクラスの歌声が1つになった時の感動は、今でもよく覚えています。今、生徒たちの合唱を聴いていると、遠い中学生時代の自分や仲間の姿が重なり、懐かしい気持ちになります。そして、その歌声に触れるたび、教員になって良かったと心から思います。

合唱の良さは、ただ美しい歌声をつくることだけにあるわけではありません。1人ひとりの声は違います。その違いを消すのではなく、互いの声を聴き、自分の役割を考えながら、1つの音楽をつくっていく。そこには、相手を受け止める力、自分の思いを伝える力、仲間と協力する力、そして集団の中で自分の役割を果たす力が求められます。誰か1人の力ではなく、それぞれの力が重なって初めて、1つの合唱になります。

練習がいつも順調に進むとは限りません。思うように声がそろわなかったり、意見がぶつかったり、気持ちに温度差が生まれたりすることもあるでしょう。しかし、そうした中で、どうすればより良くなるのかを考え、互いに声を掛け合いながら目標に向かっていく。その過程そのものが、大切な学びです。

先日、3年生は修学旅行を終えました。2年生は今月末、職場体験を控えています。どちらも、仲間や社会の人々に関わりながら、自分の役割を果たすことを学ぶ大切な機会です。久遠祭もまた、そのような学びの場であってほしいと思っています。

本番の歌声はもちろんですが、そこに至るまでに、どのように仲間と関わり、どのように自分の役割を果たし、1つの目標に向かって努力してきたのか。その過程を大切に見守っていきたいと思います。

1人ではできないことを、仲間と共につくり上げる。その経験が、それぞれの自信となり、互いを認め合う気持ちや、自分も集団の中で役に立っているという実感につながっていくことを願っています。久遠祭当日、どのような歌声を響かせるのか、今から楽しみにしています。